淀川の自然 － その現状と将来 －

淀川の自然は，この数年の間に大きく変りました。そしてその変化は，私たちが考えていた以上のものでした。私たちは，今の時点で淀川の自然を見すえ，改めて河川のあるべき姿，そして淀川のあるべき姿について考えなければならないと思います。このシンポジウムをそのような場とし，また討論の中から淀川の将来像をも明らかにされることを期待しています。

日　時：昭和62年６月７日（日）午前10時～午後４時
場　所：大阪市立自然史博物館講堂
主　催：関西自然保護機構
共　催：日本生態学会近畿地区会
後　援：大阪市立自然史博物館

＊＊＊＊＊＊＊＊ プ ロ グ ラ ム ＊＊＊＊＊＊＊＊

1. 淀川の河川敷公園と自然保全の歩み
   京都大学理学部　村上興正 氏
2. うどのヨシ原の保全
   大阪市大理学部植物園　小山弘道 氏
3. わんど・たまりの保全　－ 魚貝類を中心に －
   清風学園　紀平肇 氏
   大阪教育大学生物　長田芳和 氏
   淡水魚保護協会　木村英造 氏
4. 鳥類にとっての淀川
   大阪市立大学工学部　高田直俊 氏
5. 市民にとっての淀川
   毎日新聞社学芸部　藤田修二 氏
6. 河川のあるべき姿　－ 生態学の立場から －
   京都大学理学部　川那部浩哉 氏
7. 河川のあるべき姿　－ 総合討論にむけて －
   大阪市立自然史博物館　小川房人 氏